



GLORY

GLORY REPORT

グローリーレポート

グローリー株式会社

第76期
中間報告書

.....
2021年4月1日から
2021年9月30日まで



『2023中期経営計画』を推進中 コア事業と新領域事業の クロス成長をコンセプトに、 持続的成長を図ってまいります

代表取締役社長

三和 元純

2022年3月期上半期の経営環境と業績

当社グループは、本年4月からの3ヶ年を計画期間とする『2023中期経営計画』をスタートし、“コア事業と新領域事業のクロス成長”をコンセプトに、「次世代を切り拓く事業開発の加速」「コア事業の革新による収益の最大化」「持続的成長を支える経営基盤の構築」の3つを基本方針として取り組んでおります。

上半期の連結業績は、国内外における流通市場向け製品・サービスの販売が増加し、前年同期に比べ増収増益となりました。

海外市場におきましては、金融市場及び流通市場の販売はともに好調であり、特に流通市場において、現金管理の厳正化に加えて、感染防止を背景とする非接触（コンタ

クトレス）やセルフ化ニーズの高まりを受け、店舗のバックヤードで使用する紙幣硬貨入出金機やセルフ型レジつり銭機の販売が増加いたしました。

国内市場につきましては、金融市場において、窓口用紙幣硬貨入出金機の販売が大口需要の反動により減少いたしました。流通・交通市場では、人手不足対応やコンタクトレス・セルフ化ニーズを捉えて、セルフ型レジつり銭機等の販売が増加したことに加え、新500円硬貨発行に伴う改造作業により保守売上高も増加いたしました。

『2023中期経営計画』の進捗状況

コア事業

金融機関や流通店舗では、業務効率化や衛生配慮の観

点から、対面型から顧客操作型のセルフ運用へシフトする流れが、国内外ともに強まっています。当社は、海外の金融機関向けに、セルフ運用に対応する紙幣入出金機GLRシリーズの販売を開始し、受注は順調に増加しております。

流通市場においても、海外向けセルフ型製品であるCASHINFINITY™シリーズの販売は好調に推移しており、大型ホームセンターやスーパーマーケットにセルフ型レジつり銭機の導入が進みました。

国内市場でも、セルフ型を含むレジつり銭機の販売が、スーパーマーケットや飲食店に加えて大手量販店や調剤薬局にも進むなど、導入先の裾野が着実に拡大しております。

新領域事業

国内市場では、小売店・飲食店のDX推進支援に向けた取り組みに注力しております。上半期は、顧客分析・行動解析を得意とするアドインテ社とモバイルオーダーサービス事業などを展開するShowcase Gig社との連携を深め、本年7月より、データマネジメントプラットフォームを活用したサービス「BUYZO(バイゾー)」の提供を開始いたしました。本サービスにより、小売店・飲食店の集客力向上に貢献してまいります。

また、無人決済システムソリューションを提供するTOUCH TO GO社と資本業務提携を締結いたしました。決済の効率化と、付加価値の高い購買前の行動データや購買データを活用した新たなマーケティングサービスの

創出を目指します。

海外市場では、オンライン決済サービス市場のグローバルリーダーであるpaysafecard社とのパートナーシップ契約の締結や、銀行支店業務の共同シェアードサービス事業を展開するOneBanks社への出資を行いました。近年、金融機関や銀行支店の統廃合により金融サービス拠点が減少傾向にあります。当社グループは、両社とともにキャッシュアクセスポイントの拡大に向けた取組みを推進し、誰もが気軽に現金にアクセスできる社会の実現を目指してまいります。

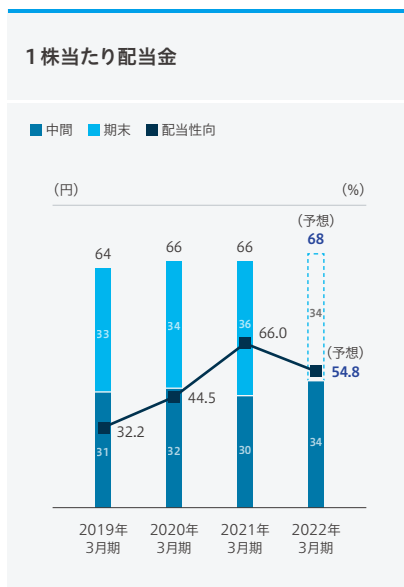
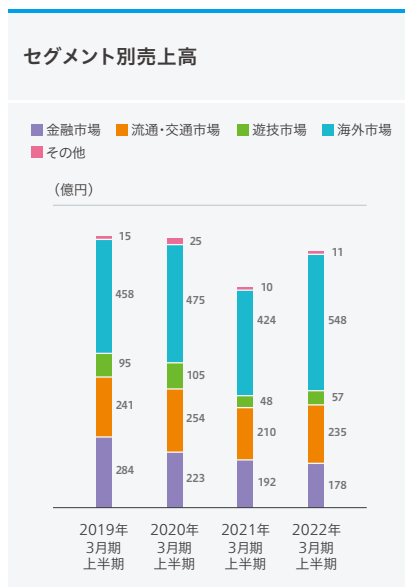
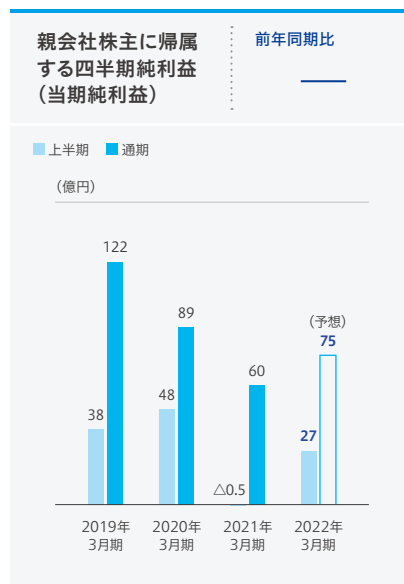
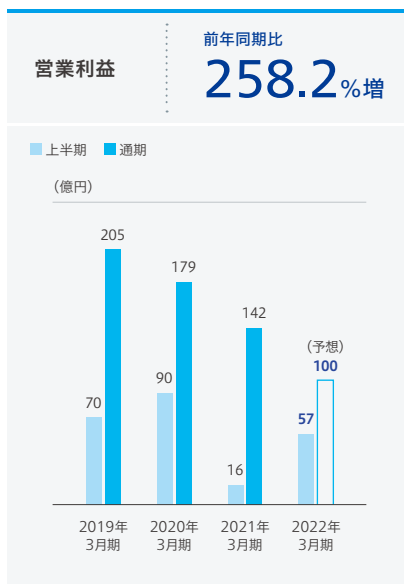
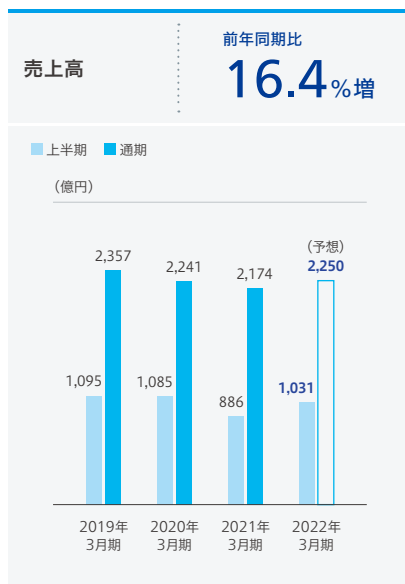
当期の業績見通し

通期業績予想につきましては、国内外ともに製品・サービスの需要は堅調であります。半導体等の部品入手難や部材価格の高騰に加え、海上輸送逼迫など先行きに不透明感があるため、売上高、営業利益、経常利益につきましては、公表値を据え置いております。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、viafintech GmbHの株式譲渡による売却益を計上予定であるため、45億円から75億円に上方修正いたしました。

当社グループは、『2023中期経営計画』の施策を着実に実行し、引き続き収益の拡大に全力で取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

財務ハイライト



配当方針及び当期の配当について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題と位置づけ、将来の事業展開に備えた財務体質の維持・強化を図りつつ、安定した配当を継続することを基本方針としております。『2023中期経営計画』期間(2022年3月期から2024年3月期)の3事業年度につきましては、上記基本方針を維持しつつ、具体的目標値を、当該3期間における“3期平均のれん償却前連結配当性向の30%以上”としております。本方針に基づき、中間配当につきましては、1株につき34円とさせていただきます。期末配当につきましても、34円(年間68円)を予定しております。

TOPICS

2021年
4月

日本初！ 顔認証決済サービスの 実証実験を開始

近畿大学の学生向けカフェで、顔認証による決済サービス「BioPay」の実証実験を開始しました。認証精度の向上により、マスク着用時も決済が可能です。



Biopayを使用した決済の様子

5月

窓口業務のセルフ化を支援する海外 金融機関向け紙幣入金機 〈GLR-100〉を発売

多様化する銀行店舗のセルフ化ニーズに対応します。

Focus 1
コア事業 P5

6月

商業施設内テナントの精算業務を 自動化・効率化する「れぼこれ!」を発売

ショッピングモールなどの商業施設向けに、テナントの売上データをクラウド上で一元管理できるテナント精算業務システム「れぼこれ!」の販売を開始しました。

小売店や飲食店のDXを支援し、販促効果を最大化する データ活用サービス「BUYZO」を発売

来店客の行動データと券売機やつり銭機から収集・蓄積したデータを掛け合わせ、顧客分析や行動解析を行います。これらを活用することで、効果的な広告配信など、販売促進戦略の立案が可能です。

7月

業界初！つり銭機のサブスクリプションサービス 「REGIX」を提供開始

月々一定金額を払うだけでPOSレジとつり銭機が利用できるサブスクリプションサービス「REGIX」の提供を開始しました。小規模の小売店やクリニックにおいて、手軽につり銭機の導入が可能となりました。

8月

生活協同組合コープこうべにて 青果スコアリングデータを活用した実証実験を実施

トマトの外観から甘味・酸味など5項目を測定し、データをパッケージに貼付。消費者が形や色で選んでいた青果に、「味」という新しい指標を付加し、行動変化の調査を行いました。得られた調査結果を、フードバリューチェーンに活かすことで、フードロスなどの社会課題解決を目指します。



グラフでトマトの味を表示

英国OneBanks社の株式を取得

銀行支店業務の共同シェアードサービス事業を展開する英国 Unified Financial Limited (OneBanks社)に出資しました。同社の技術やソリューションに当社の金融機関向け製品・サービスを組み合わせることで、両社の事業拡大を図ります。

ロボット事業の新たなサービス 「不定形物認識技術システム」を拡充

重なり合った物体や不定形物を、AIを活用した独自の認識技術で正確に判別し、高速で安定感のあるピッキングを実現します。

Focus 2
新領域事業 P6

9月

ヨーロッパ最大のドラッグストアグループ 「drogerie markt GmbH & Co. KG」に CASHINFINITY™シリーズ〈CI-100〉を1,000台販売

〈CI-100〉は、流通店舗のバックヤードに設置する売上金入金出金機です。現金管理が効率化できると好評をいただき、納入台数1,000台を達成しました。

10月

海外市場向けデジタルサービス 「UBIQULAR™」を発売

海外市場向け通貨処理機の遠隔監視と店舗DXを支援するデジタルサービス「UBIQULAR(ユビキクラー)」を発売しました。

Focus 1
コア事業 P5



「グローリー統合レポート2021」を発行

今年度初めて統合レポートを発行しました。事業を通じた社会的課題の解決と企業価値の向上に向けた取組みを財務・非財務の視点から体系的にまとめました。



各トピックスの詳細は、
公式ウェブサイト「最新情報」をご覧ください。

<https://www.glory.co.jp/news/>

特集

『2023中期経営計画』の達成に向けて

2021年4月にスタートした「2023中期経営計画」では、“コア事業と新領域事業のクロス成長”をコンセプトに、企業価値向上を図ってまいります。

紙幣入出金機
(GLR-100)



コア事業

多様化する金融店舗スタイルの実現に貢献！ 海外金融機関向け紙幣入出金機 〈GLR-100〉を発売

FOCUS

1



当社は、2021年5月に新型紙幣入出金機〈GLR-100〉を発売いたしました。海外の金融機関では、店舗の統廃合や少人数での効率的な店舗運営を進めており、来店した顧客自身が入出金を行う「セルフ運用」のニーズが高まっています。〈GLR-100〉は、従来機能の向上だけでなく、セルフ運用を想定した機能を揃え、多様化する店舗スタイルの実現に貢献いたします。

POINT 1

セルフ運用を想定した 新機能の搭載

操作に不慣れな顧客の利用も想定し、硬貨の誤投入検知や金額確定前の取出しを防ぐ出金口シャッターなどを搭載しました。また、ロビーからの紙幣の装填・回収を想定したカセットオプションや硬貨入出金機との一体運用なども提案が可能で、あらゆる設置形態に対応します。

POINT 2

リモート監視により安定稼働と 運用の最適化を実現

定期的に機械の状態や稼働状況データを収集することにより、故障を未然に防止することが可能となります。また、収集したデータを活用した新デジタルサービス「UBIQUALAR」にも対応しています。

IoT技術を活用したデジタルサービス「UBIQUALAR」

当社は、2021年10月に海外市場での通貨処理機の遠隔監視と店舗の適正運営を支援するサービスを開始しました。本サービスでは、〈GLR-100〉や流通店舗向け現金管理システムCASHINFINITY シリーズなどの通貨処理機の稼働状況や現金在高をクラウド上で遠隔監視し、データを分析。それを元に、当社が現金回収やつり銭準備金配送の最適タイミングを予測して手配することにより、お客様の現金管理コストの削減に貢献します。



Close-up

新領域事業

ロボット事業で新たな挑戦 独自の認識・識別技術で 生産性向上に貢献

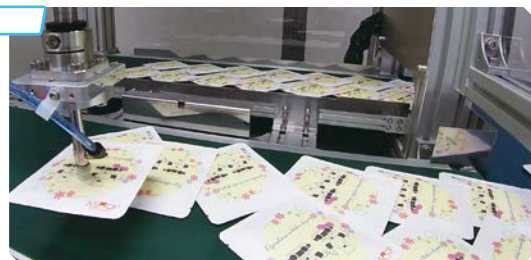
日本では労働人口の減少による人手不足は喫緊の課題であり、人手不足対応やさらなるオートメーション化が求められています。当社はこのような社会課題の解決に向けて、これまで多くのモノづくり現場で人とロボットが協働する自動化ラインを構築してまいりました。

2021年には、通貨処理分野で培った認識・識別技術を応用し、菓子袋など形が一定でない不定形物の高速ピッキングを実現する新たなソリューション「不定形物認識技術システム」を開発しました。外光やシワ等により同じ物体でも差があるものや異なった種類の製品が混在している場合においても、3Dカメラが認識し、AIが学習をすることで、指定の位置へ向きを揃えてピッキングを行うことができます。箱状など形が定まったものだけでなく、不定形物を扱う生産ラインでのロボット活用をお客さまに提案することで、人手不足の解消や生産性向上に貢献してまいります。

世界のロボット導入台数は、2020年から2022年にかけて年間平均成長率12%で拡大すると予測されています。当社は、これからも、お客さまの多様なニーズに細やかにお応えすることで、生産性向上や品質の安定化など、さまざまな社会課題の解決を実現してまいります。

FOCUS

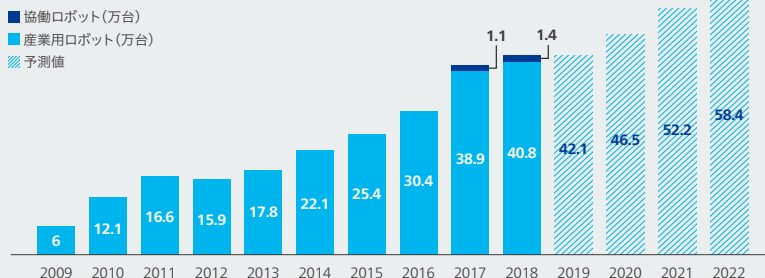
2



「不定形物認識技術システム」

重なり合った製品や不定形物を確実に見分け、高速で安定感のあるピッキングを実現

世界ロボット導入台数推移と予測



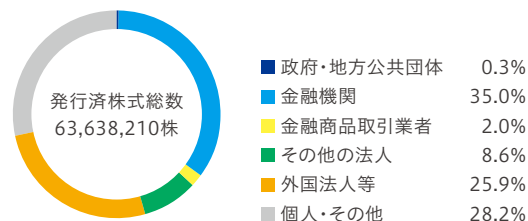
出所:「World Robotics report(2019.9.18)」国際ロボット連盟

会社情報・株式情報 (2021年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数 (自己株式2,866,078株を含む)	63,638,210株
株主数	11,116名(前期末比500名減)

所有者別株式分布状況



会社概要

商号	グローリー株式会社	
設立	昭和19年(1944年)11月27日	
資本金	12,892,947,600円	
従業員数	3,563名(連結10,659名)	
本社	〒670-8567 兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号 TEL:079-297-3131(代表)	
事業所等	本社・本社工場、東京本部、品川事業所、 埼玉工場、姫路物流センター、他支店等105拠点 グループ会社91社(うち海外77社)	
役員一覧	代表取締役会長……………尾上 広和 代表取締役社長……………三和 元純 取締役……………尾上 英雄 取締役……………馬淵 成俊 取締役……………小谷 要 取締役……………原田 明浩 取締役……………藤田 知子 社外取締役……………井城 譲治 社外取締役……………内田 純司 取締役(常勤監査等委員)……………藤田 亨 社外取締役(監査等委員)……………濱田 聡 社外取締役(監査等委員)……………加藤 恵一	

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,300	11.5
日本生命保険相互会社	3,427	5.4
グローリーグループ社員持株会	2,619	4.1
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,180	3.4
株式会社三井住友銀行	2,100	3.3
タツボーファッション株式会社	1,500	2.4
グローリー取引先持株会	1,178	1.9
株式会社日本カストディ銀行(信託口7)	963	1.5
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	942	1.5
株式会社三菱UFJ銀行	879	1.4

(注)上記のほか、当社が所有している自己株式2,866,078株があります。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	6457
公告方法	電子公告によります。 [公告掲載URL] https://www.glory.co.jp
株主名簿管理人/ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
(各種お問合せ先/ 郵便物送付先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL:0120-094-777(通話料無料) 受付時間 9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)
(ウェブサイトアドレス)	https://www.tr.mufg.jp/daikou/

